

## 女性生産者交流会 報告書

第11回女性生産者交流会が11月1日（木）に開催されましたので、ご報告いたします。

日時：11月1日（木） 13時～16時

場所：パルシステム連合会 東新宿事務所 2階

参加団体：29団体

参加人数：101名

### 【概要】

#### 1. 講演

「女性の感性を活かした農業のあり方について」

筑波大学教授 納口 るり子氏 講演

食生活において50年前と比べて大きな変化が生じている。米については、50年前に比べて半分に低下している。青果は米ほどではないが徐々に摂取量が減少している。それに対して、肉・乳性品などの摂取量は大幅に伸びている。

また、スーパーなどの中食を利用する家庭が増えてきていたり、食事の準備にかかる時間も減少してきており、それに伴って食生活の変化について報告がなされた。

一方で農産物の流通に目を向けると、出荷先として農協が最も多いが、ついで消費者に直接販売となっている。消費者との直接販売において女性の感性・存在が活かされてくる。

（女性と一括りにはできないが）女性の特徴としては

- ① 生産だけでなく加工・販売も
- ② 消費場面を意識、お客様目線 農産物—料理、花—アレンジ
- ③ 食育・花育—次世代の育成
- ④ 農場周辺の環境美化
- ⑤ 作っている作物にも共感「リンゴの気持ち」を伝えたい。
- ⑥ お客様とのコミュニケーション重視
- ⑦ 農産物の美味しさ、消費者の健康を重視

にある。以上のことから、女性が携わると

- 農業は手段。農業を通して、生産者は楽しく豊かに、消費者はおいしく健康に。
- 生産者と消費者が、売り手・買い手という対立ではなく、両者が楽しく豊かで健康になる関係。

という視点で消費者との交流、販売を行っている。この視点は生協の産直の視点と同じものであり、農薬問題、放射能対策については両者が楽しく豊かで健康になるという立場から解決策が生まれてくるのではないか。また、次代につなぐという発想（食育・花育）も含まれている。

上記のことから、女性の感性の優れている点は

- 共感力（他の農業者、消費者、他業種）  
立場が異なる相手でも、交流することができる
- コミュニケーション力  
レシピを伝えるなど、農産物を通してのコミュニケーションを楽しむことができる。
- 経済よりも総合的な尺度（幸福量？）を持つ
- 男性中心の社会に多様性を与えることで、産地の量的・質的な発展が可能

といった点にある。

#### 《質疑応答・感想等》

- かつて農家の女性は、自由に出歩くことが難しかった。そこで会員生協の理事たちが上手に女性生産者が外出せざるを得ない状況を作ってくれたので、組合員さんとの交流を図ることが出来た。今はなかなか組合員さんが産地に来てくれなくなってしまった。もっと組合員さんにも産地に来てほしい。
- 野菜嫌いの学生さんが民宿にとまりに来た。コンビニなどもないようなところなので、自分たちで収穫してきて、それを食べるしかない。野菜を食べたこともない人が、初めて野菜を食べて、美味しく感じる事が出来た。それ以来、野菜が好きになったという。それが今まで民宿をしてきた中で一番嬉しかった。



## 2. テーブルトーク

参加された生産者が 11 グループに分かれ、納口先生のご講演を受けて感じたこと、自分たちの産地で行っていることなどについて約 45 分間ディスカッションしました。終了後、各グループの発表は、以下の通り。

- ・ 自分が使えるお金がほしい、と思い長崎で初めて家族協定を結び、月給 3,000 円でスタートした。給料は貯蓄し、何かを行おうと行政に話をしたとき、まったく動かなかった。であれば、自分が！！と思い議員に立候補した。1 期で残念ながら落選してしまったが…。何かやりたい、やらなければならない、今の状況で出来ることを模索している。
- ・ ハスは赤しぶがあった方が新鮮。組合員さんは、それを知らずクレームとなってしまう。本当は、赤支部があった方が新鮮なんです！！是非、組合員さんに伝えてください！
- ・ 野菜の成分表示などもカタログにつけては？野菜の良さをどう伝えていくかもあるのでは？
- ・ 産地に来てほしい！！

といった意見が出されました。

最後に、納口先生より

「人の力が一番大事。仲間とやっていくことで可能性が広がっていく。仲間と行うことが可能性の源泉になる。誰かとやっていくことは、何よりも楽しい。」というコメントを頂きました。

尚、第 1 2 回女性生産者交流会の受入産地は、無茶々園（愛媛県）、11 月頃開催となりました。



次回、開催予定の無茶々園  
片山さん



### 【補足】

今回、オプションとしてランチ会を設定しました。70 名の方々が参加され、和気藹々と食事をされました。

また、休憩時間を利用してパルシステム職員による三味線の演奏もお楽しみいただきました。



翌日、各会員生協に生産者がわかれ（茨城、福島は除く）、生産者と組合員の交流が行われました。

### 【次回開催に向けて】

全体会への参加は概ね例年通りと思われますが、初めて開催となった各会員生協での交流会へはなかなか参加者が集まらなかった。特に、遠方で、生消協産地が周辺に少ない会員生協は参加者を集めることに苦勞をした。

また、併せて時期が収穫祭時期と重なったこともあり、収穫祭準備のために参加できないといった産地もあった。

一旦、組合員との交流を行う年度、産地での生産者同志の交流を交互で開催と決定しているが、組合員との交流を行う際には、開催スタイル、時期については再考が必要。